

マーケット概況（2019年12月）

12月の債券相場は、米中貿易協議の進展に対する期待感からリスク選好の姿勢が強まり、売り先行で始まった。3日の10年債入札ではテール16銭と不調な結果となったことから下落基調を強めたが、5日の30年債入札が堅調な結果となると超長期債中心に買いが入り、イールドカーブはフラット化した。その後は、英国総選挙で保守党が過半数を獲得し、合意なきEU離脱が回避されるとの思惑から世界的な株高となり、債券相場は再び軟調推移となったが、17日に行われた20年債入札を無難に通過すると超長期ゾーン中心に下げ渋る展開となった。19日の日銀金融政策決定会合では金融政策が据え置かれたが、米国の主要株価指数が揃って過去最高値を更新する中、20日には10年356回債の利回りが2019年3月5日以来の水準となる0.010%まで上昇し、債券先物3月限は一時151円62銭まで下落した。しかし、25日に実施された日銀買入オペの買入額が据え置かれたことで堅調地合いに転じると、月末には円高株安が相場の下支えとなり、10年356回債の利回りは-0.025%で2019年の取引を終えた。

<短国市場>

3M金利は、月を通して投資家需要が乏しく概ね-0.1%台前半で推移した。6日の3M874回債入札では最高落札利回り-0.0986%と前回から5bp程度上昇したが、13日の3M876回債入札は、受渡日が新積み期に入ったことでGC金利が低下し、-0.1154%まで低下した。その後、年末で参加者が少ない中実施された20日の3M878回債入札では、-0.0893%と2016年4月以来の高水準となり、最終的にセカンダリー市場では-0.110%で取引を終えた。1Y金利は、18日の1Y877回債入札で最高落札利回りが-0.10%台と2016年1月以来の水準まで上昇し、その後は2年国債の値動きに連動しながら-0.110%～-0.125%のレンジで取引された。

<一般債市場>

月初は国債金利が依然としてマイナス圏で推移していたことや、需給環境が引き続き良好であったことから、新発10年政保債、地方債の起債スプレッドは国債カーブ+8.0bp、同+14.0bpといずれも前月比縮小して決定した。一方、10年地方債ではシ団方式で決定した全銘柄で利率が0.1%を超え、販売は順調であった。その後、国債金利が上昇し、一時プラス圏で推移することもあったが、既発債のスプレッドは落ち着いて推移した。社債は大型銘柄の起債が相次ぎ1兆6,530億円（個人向け債含む、ドル建て国内債除く）が発行された。住友化学や東京海上日動火災保険を始めとする大型のハイブリッド債が目立ち、同種の銘柄は計10本6,930億円と同月対比で過去最高を記録した。

◎ 主要債券月間四本値 ◎

| 銘柄 | 始値 | 高値 | 安値 | 最終出来値 |
|------------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| #356 | -0.075(2日) | -0.075(2日) | 0.010(20日) | -0.025(30日) |
| #355 | -0.085(2日) | -0.085(2日) | 0.000(23日) | -0.035(30日) |
| #346 | -0.160(2日) | -0.160(2日) | -0.070(20日) | -0.115(30日) |
| #141(5Y) | -0.175(2日) | -0.175(2日) | -0.075(10日) | -0.130(30日) |
| #170(20Y) | 0.260(2日) | 0.255(2日) | 0.315(23日) | 0.275(30日) |
| #875TDB(6M) | -0.105(9日) | -0.160(16日) | -0.105(9日) | -0.145(23日) |
| #863-#878TDB(3M) | -0.158(2日) | -0.170(13日) | -0.095(6日) | -0.110(26日) |